

社外取締役メッセージ

シフトチェンジを意識した先進性と
長きにわたり培ってきた
信用・信頼・安心感を礎に
新しい地域共有価値の創出に向けて

社外取締役 前田 香織

ITの専門家としての観点と 共に考えるという姿勢に留意

従来、銀行はお客さまとの接点として、店舗における対面営業を基本としてきましたが、現在では、ATMやネットバンキング等の利用を含め、インターネット越しにサービスを提供する場面が増えています。これは証券をはじめとするグループ各社も同様で、お客さまとの接点のデジタル化が進み、IT活用が競争力の源泉を生み出す時代になりつつあります。

そうした中で、この役職をお引き受けした時分から、専門家の観点からの発言を意識しつつも、評論家にはなりたくないとの想いを強く持ってきました。当然ながら、業界によって文化的な違いもあり、一足飛びには変えられないIT活用の事情がある中で、いかに変えていくか、変える際にはどのように進めるかを一緒に考えていくという姿勢に留意しています。取締役会での議論に加え、毎月の監査報告のリスク管理に含まれるセキュリティおよびシステムに関する事項にも気づきを提示しています。

また、IT戦略会議にも参加し、それぞれのグループ会社の戦略を一次的に見て、その進捗や世の中の状況、金融庁の方針等の反映も含め、戦略見直しの検討の場面、例えば、従来メインフレームと呼ば

れる大型コンピュータで処理されてきた業務について、クラウドの活用により、システムのダウンサイジングを検討するといった場面等で見解を述べています。その他、セキュリティのあり方やシステム障害の防止等についても、社外取締役の知見が十分に活かされていると実感しています。

ガバナンスの実効性について

取締役会の開催にあたっては、従前から社外取締役に対して、各担当部署による事前説明会がありました。2020年度は、外部機関による取締役会の実効性評価を参考に、この事前説明会に変化がありました。テーマごとに担当取締役から、経緯や前提を含め、説明する流れとなったことで、より忌憚のない質問や意見が吸い上げられ、取締役会において必要な事項をしっかりと議論できる、一層充実した体制となりました。

また、当社の取締役会は、専門分野が異なっても社外取締役が積極的に進言できる風土があり、常識的な枠に固執することなく、耳を傾け、新しい見地を受け入れる度量の大きさを高く評価しています。

スピード感ある対応という視点も大事な一方で、

特にITに関して言えば、セキュリティの問題や個人情報保護の視点からおいそれと変えられない、付け焼き刃ではない要点も多く、前衛的かつ慎重であることのバランスに非常に優れていると感じています。

また、日本電信電話株式会社（NTT）の社長・会長を務められた三浦社外取締役が経験により蓄積された持株会社化の知見は、今回の移行に非常に役立てていただいたものと実感しています。

コロナ禍を経ての気づき

やはり、働き方のスタイルが大きく変わったとの印象です。これは世の中全般の話ですが、出社しない形態が日常化する中でも業務は遂行されており、それは通信環境の整備も含め、世の中や会社が対応してきたIT化の恩恵であると認識しています。

主に広島銀行の社外取締役として過去6年間のIT化の動きを見てきた中では、段階的に相応の準備が進められ、在宅勤務、オンライン会議、協議決裁等、当社グループのオンライン化への移行は比較的スムーズになされたかと捉えています。

また、実質的に対面営業ができない中、お客さまとの接点もオンラインを主流としなくてはならない状況が続いていますが、うまく機能をスライドしながら活動できているものと認識しています。

一方で、仕事はチームで行うものも多く、日々の従事者間のコミュニケーションのあり方も大きく変化していると思います。幸い、仮想的な集まりや立ち話的なコミュニケーションも実現できるさまざまなツールの開発もこの1年で格段に進んでいることから、今後、そうしたツールの活用も視野に入れながら、新たな働き方のスタイルに応じた、コミュニケーションのあり方を模索していく必要性を感じています。

今後、さらなる企業価値向上のために

持株会社化により、人が生きていく間、会社を経営していく間、どの場面でも〈ひろぎんグループ〉に頼っていただける「生活全般におけるパートナー」という役割を果たせるようになったというメッセージを浸透させていく必要があると思っています。

例えば、IT関連業務を担う会社として誕生した「ひろぎんITソリューションズ」は、当社グループ内のシ

ステム構築・運用に加え、一般的なIT企業同様、お客さまの課題解決に寄与するITサービスの提供、システム構築、コンサルティング業務を行う会社です。IT業界は、さまざまなあり方・規模の会社があり、継続されない可能性のある会社も多い中で、「ひろぎんITソリューションズ」は、当社グループの一員として安心感を持ってご活用いただける信頼に足る企業であり、IT業界の厳しい企業間競争を勝ち抜いていくだけの成長を目指していることを知っていただく必要があると思っています。

ただ、持株会社体制の中で「ひろぎんITソリューションズ」が採用や雇用体系などにおいて、もっとも文化が異なる領域であると考えており、グループ企業間で互いに違いや特性を理解しながら、メリットを生かしていく方向に考え方をシフトチェンジしていくことが非常に大事になってくると見えています。

そのほか、グループ各社がこれまでにそれぞれで構築してきたシステム資産について、共有化を進められると考えられ、今後さらに関わることでできる場面が増えてくと捉えています。もちろん、共有化することで効率的に機能するもの、逆にコストが嵩むもの、その両方があるため、生産性向上と業務効率化を満たす観点から検討を進めていく必要があると考えています。

また、新サービスの創出や提供サービスにおける付加価値創造という面からも、データの取扱・利用においてホールディングス化していることの意義を時代の状況に応じて、最大限に生かしていく方向に進めていくことを考えています。



Profile

広島県生まれ。広島大学工学部助手を経て、1990年に日米共同研究機関の財団法人放射線影響研究所入所。日本ではまだ珍しかったインターネットの接続ポイント*設置に取り組んだことを機に、情報通信とコンピュータネットワーク分野研究の道へ進む。1994年6月より広島市立大学勤務、2007年4月同大学院情報科学研究科教授。近年はIT、クラウド利用におけるセキュリティ・運用管理・無線LANの通信品質といったIoT基盤を支える技術に関する研究を継続。2015年6月から2020年9月まで広島銀行社外取締役。2020年10月より、当社社外取締役。

*企業やプロバイダーが提供するインターネットに接続するためのポイント